プログラムA—16

暗唱しよう

慣用句（体の一部シリーズ）

年

二つ以上の言葉が結びついて、もとの言葉の意味とはちがう意味を持つようになったものを慣用句と言います。「足が地につかない」は宙に浮かんでいるということではありません。「頭が切れる」は血がでるわけではありません。他にもたくさんあるので、調べてみましょう。

足が　地につかない	気持ちが高ぶって落ち着かない。
頭が　切れる	頭の回転が速く、てきぱきと事を処理する能力がある。
後ろ髪を　引かれる	頭の後ろの髪の毛を引っぱられるように心残りがして、きっぱり思い切れないこと。
腕に　よりをかける	自信のある腕前をいっそうよく示そうとはりきること。
肩で　風を切る	いせいがよくて得意な態度を見せる。
のどから　手が出る	ほしくてたまらないたとえ。
舌つづみを　打つ	食べ物がおいしいことを表す様子。
耳に　たこができる	同じ話を何度も聞かせられることのたとえ。
へそで　茶をわかす	おかしくてたまらないことにいう。
顔が　広い	知り合いが多く、つきあいが広いこと。

（出典　広辞苑）